

## 来年度に向けてPTA研修プログラム活用の検討を!

岡山県教育委員会では、夢や目標を見つけ挑戦する力を養うため、「自分を高める力」を重点とする4つの非認知能力を育成する『夢育』に取り組んでいます。そこで、津山教育事務所では、本年度実施した3テーマの「PTA研修プログラム」に加え、新たに『非認知能力』について保護者同士が交流しながら学び、考えることのできるプログラムを作成しました。保護者が非認知能力について学ぶことのできる貴重な機会として、来年度の活用をぜひ御検討ください。

### NEW! 未来を生きる子どもたちのために必要な力 **非認知能力**

**Let's 夢育!** PTA研修プログラムの活用を!

令和4年度  
【幼稚園・こども園・保育園・小学校・中学校】**夢育**

未来を生きる子どもたちのために育てたい力  
**非認知能力**って?

非認知能力のレンズを使って子育ての「大切な視点」再発見!

非認知能力ってなに? レンズってなに? 開催次のページ!

岡山県教育委員会では、夢や目標を見つけ挑戦する力を養うため、「自分を高める力」を重点とする4つの非認知能力を育成する『夢育』に取り組んでいます。また、保護者からは「非認知能力ってどんな力なの?」という声聞くことがあります。

そこで、津山教育事務所では、「非認知能力」について保護者同士が交流しながら学び、考えることのできるプログラムを作成しました。どうぞ、各校園での「保護者の学び・交流の場」の充実に向け、是非、ご参考にしてください。

【連絡先】岡山県教育委員会津山教育事務所生涯学習課(0868)24-8703

非認知能力レンズを使って「いいところ」を見つけよう。

自分を高める力    自分と向き合う力    他者とつながる力

新プログラムでは、わが子が今がんばっていることや、好きなことを交流しながら、「**非認知能力とは何か?」「なぜ非認知能力が必要なのか?」**という基本的なことから、「**非認知能力を育むためのポイント」「非認知能力を育むための仕掛け**」など、子育てをしていくうえでの具体的な行動まで、参加者の子育てへの思いや対話を大切にしながら学んでいきます。

また、わが子の非認知能力を育むためのポイントを見えやすくするための「**非認知能力レンズ**」の考え方についても学び、保護者としてどのような視点をもって関わり、どのような声かけをしていけばよいのかを参加者みんなですpecifically考えます。

資料:「非認知能力」レンズを使って、『いいところ』を見つけよう!

非認知能力レンズの役割を知り、子どもの良いところの見つけ方について考えます。

### 3テーマ 【スマホ依存防止】【自己肯定感向上】【主体的な家庭学習】

- スマホをわが子に持たせるなら、保護者必須の5カ条
- 1条 本当に必要な、何に使うかなど、まずは**子どもとしっかり話し合います。**
  - 2条 **家庭のルール** (使用時間・利用目的・利用する場所など)を決め、マナーについても話し合います。
  - 3条 わが子を守るため、**フィルタリングサービス**を積極的に活用します。
  - 4条 使用状況を把握するために、**ペアレンタルコントロール**を設定し、活用します。
  - 5条 **インターネット等の危険性**について、家族でしっかり話し合います。
- (岡山県教育委員会生涯学習課提供)

子どもだけでなく、大人のスマホの使い方も見直すことができました。しっかりコミュニケーションをとることが大切だと改めて思いました。  
**(中学校保護者)**

リフレーミングで見方を変えよう!

**リフレーミング**

ある枠組(フレーム)でとらえていることを、今までとは違った見方をしてとらえること。

半分しかない!    半分もある!

「短所」と感じることも、**見方を変えると「長所」**になる

メディアとの向き合い方をもう一度親子で話し合い、自分も手本となるような使い方をしていきたいです。  
**(就学前保護者)**

子どもとの関わり方について、具体的にどう対応するのがよいのかを考えたり、伝え合ったりすることができ、有意義な時間でした。  
**(小学校保護者)**

子どもが夢中になっていることに興味をもって関わり、応援していきたいです。  
**(小学校保護者)**

**家庭学習の意義**

【ポイント1】授業の復習  
**「わかった」 → 「できる」**

【ポイント2】自分をコントロール  
**時間コントロール** → **大人になっても必要な力**

【ポイント3】工夫した自主学習  
**興味ある事を自分で学ぶ** → **ゆめじつげん 夢実現**

目に見える部分だけでなく、**頑張った過程**や当たり前のことを当たり前と見過ごさずほめてあげたいと思います。  
**(小学校保護者)**

親や大人の思いばかりが先行するのではなく、あくまで子どもが主人公で、それを支えるサポートの仕方が学べました。  
**(中学校教職員)**